宗旨　浄土宗
本尊　中尊
[illegible]

ノ本尊不動ナリトテ恵林寺ノ奥上求寺ノ不動ヘ信玄公御参リナサル」とあるはこの不として自ら参詣したと伝う。大滝山は間分山中に雌雄の滝あるによりて起こる。寺を衆生からとったものであろう。

寺また末寺由緒留書（宝永二年）によると開山は夢窓国師と伝う除地八拾坪。

一　十一年当山に合[illegible]記・寺記によると、

中興開山　絶岳座元　享和三年正月廿一日円寂

寺　壱ケ所　梁間四間　桁間七間

五間　堂二カ所虚空蔵堂と釈迦堂がある。この釈迦堂は法喩庵安置のところ廃寺につき明治

現在の客殿は元治元年の再建による。

妙高山普門寺（西保）

宗旨　曹洞宗

本尊　薬師瑠璃光如来

西保下村にあり、永昌院末、寺伝によれば安田遠江守義定の建立した寺で、本尊薬師如来は義定が建久年間に古くから交通の要地として重視されていた「小田の谷」に要害城を築くに当たって、近くの部落の陀羅尼堂からこの寺に遷したといわれている。薬師如来は三十三年に一度の開帳以外は絶対に他見を許さず現在県指定文化財として保護されている。

国志によれば安田氏の城跡に寺は建立されており、安田義定の牌を置く、開基曾覚定光大禅定門、建久五年八月十九日とあり開山は岳翁宗碩和尚、往古は真言宗であったが、明暦年間永昌院十三世撫天性明大和尚を請じて曹洞宗となる。山内の辰巳に行基坂、行基腰掛石と伝うところがある。社記・寺記によると規模は次の通り。

本堂　横七間　竪六間
庫裡　横六間　竪四間
土蔵　横四間　竪同断
境内除地　百五拾六坪

城向山実相寺（西保）

宗旨　曹洞宗
本尊　聖観音菩薩

西保馬場にあり、永昌院末である。開基は慶長十九甲寅年三月玉庵浄金居の創建にして、開山は撫天法育大和尚、現存されている堂内位牌に二世東巌門大和尚、六世連充覚城大和尚、七世真竜正大和尚、十四世正山碩隆大和尚等が残されている。

建物は本堂（梁間五間、桁間七間）庫裡（梁間六間、桁間四間）が社記・寺記にみえるが大正十二年十月の暴風のため倒壊し、大正十三年現在の観音堂を建立す。境内には白山大権現、宗覚大明神を祭祀している。

正法山法眼寺（西保）

宗旨　曹洞宗
本尊　延命地蔵

開山番州和尚元和五乙未年開闢より当暦迄弐百五拾三年ニ罷成候

張弓山信光寺（赤芝）

宗旨　曹洞宗

西保牧平赤芝にあり、洞雲寺末である。国志には「除地一畝二歩」とあり社記・寺記には次の通りである。

一、本堂　行間八間　梁間六間
一、玄関　行間二間　梁間同断
一、庫裡　行間五間半　梁間五間
一、衆寮　行間五間　梁間三間半
一、御除地境内　三畝　外山林境内御見捨地
一、開山洞雲寺二代竜室冠黄和尚
　寛永元子年開闢より当暦迄二百五拾年ニ罷成候開山より当住迄二拾四代ニ罷成候

○ **金峰山洞雲寺**（北原）

宗旨　曹洞宗
本尊　釈迦如来

北原にあり、由緒書によれば、その沿革は建久八年建立と伝う。当初は浄谷山安養寺と称し真言宗に属し、現在地より北方十余町を隔てた山沢に建立された。現在でも地名を安養寺と呼称している。その安養寺は建久五年（一一九四）

八月十七日の小田山城の戦いにて鎌倉勢加藤次景廉並びに梶原景時の軍勢のため安田遠江守義定の三男西保三郎義安（実は義定の曽孫、義高の子）も自刃して果てた。老臣渡瀬志摩守源清満は主君の首級を埋葬して堂宇を建立したのが浄谷山安養寺である。義安の法号は安養寺殿義烈浄安大禅定門と贈られ、志摩守も名を清兵衛と改め終生堂守りとなり主君義安の菩提を弔うたと伝える。時に堂菴建立は小田谷合戦より三年を経た建久八年九月十二日と伝える。

天正十八年（一五九〇）に加藤遠江守藤原光泰によって現在地である北原上道に創立し、金峰山洞雲寺と称した。開基は加藤遠江守光泰、開山は増福山興因寺第十三世抱山光暾大和尚禅師である。山号「金峰山」は、甲斐の雄峰からとったものである。とくに甲斐国守であった加藤光泰は崇心厚く今の沓掛地蔵場に金峰山金桜神社及大国主命を遷祀して社殿石鳥居を建立するとともに本寺の山号とした。寺の西方に遠矢山があり、その中腹の洞穴で天正十二年西国の六部源右衛門なる者相州三浦郡より来りて断食の行を修めて同十五年までに西国三十三番の観世音、弘法大師像、地蔵尊を安置した。この洞穴は方三十間あり、片隅に清泉が湧き出で雲霧はいつも絶えない。開抱山光暾大和尚はこの洞穴に二十一日断食の修行をなして今の沓沢に至りて洞雲の二字を冠して寺を建立しこれが寺名の起因となったとも伝う。

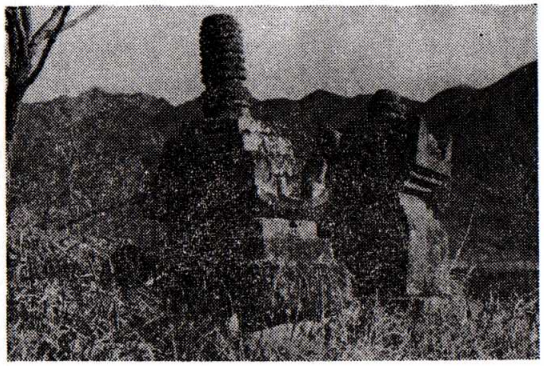
創立当時の伽藍は広大な堂宇と伝えるが現在の客殿、庫裡は嘉永七年の建築物である。中雀門は天正年間加藤光泰が建立した長屋門であると伝う。甲斐国社記・寺記第三巻から規模をみる。

一、本堂　行間八間半　梁間七間半弐尺
一、玄関　行間三間　梁間三間
一、庫裡　行間拾弐間半　梁間六間
一、土蔵　行間三間　梁間弐間半
一、物置　行間五間　梁間弐間

安田義定廟所

大字城古寺字石塔というところに、宝篋印塔二基あり、足利尊氏、二階堂道蘊の墓という。この地はもと二階堂氏の所領地といわれ、北朝暦応元年、南朝延元三年（一三三八）将軍足利尊氏により、常牧山浄居寺を七堂伽藍の精園としたと伝う。東山梨郡誌によると足利尊氏ならびに二階堂信濃守の石塔と伝えられている。

宝篋印塔は石塔美術の中でも精巧なもので、「一切如心秘密全身舎利宝篋印陀羅尼経」を納め供養塔として建てられたものである。形は平面方形で下から 礎、塔身、笠、祖輪からなり、笠の四隅に隅飾り、突起など彫刻もよく、石塔美術として格調高いものである。



宝篋印塔二基

二基のうち東側の塔は、基礎の正面七六㌢、笠は五〇㌢四方で、隅飾りの高さ、一六㌢、軒そりはない。西側の塔は基礎が正面五八㌢、横五三㌢で、中三段の高さは三二㌢あり、笠の下部は五三㌢、四方で軒ぞりがあり隅飾りの高さ一二㌢祖輪の直径は一七㌢あるが破損が多い。残念なことに二基とも塔身が紛失しており、また祖輪も破損しているのが措しまれる。昭和五十一年三月三十日、町指定の文化財となる。

○宝篋印塔・安田義定廟所　町指定文化財（昭和五十一年三月三十日）

大字西保下御所集落の西方、鼓川の左岸にあり、精巧なる宝篋印塔である。甲斐源氏安田遠江守義定の廟所という。

安田義定は、長承三年（一一三四）源義清の子として若神子（須玉町）に生まれ、加納庄（山梨市小原）に館を置、本町の小田野山に要害城を築き、その城下である現在の御所集落に西御所を置いたという。義定は平家追討に功をたてた勇将であったが、源頼朝のため建久五年（一一九四）八月十九日滅亡した。この廟所は義定と、その一族をまつった所である。

この宝篋印塔は、足利時代のものといわれ、基礎は七〇㌢、塔身は二三㌢の正方形をしていて、笠は横四七㌢、厚さは上層下層あわせて三三㌢あり、隅飾りは比較的大きく直立して時代の古さを示している。突起の部分の彫刻の形もいい、祖輪が紛失していることが惜しまれる。

中牧村郷土誌によると、付属地二百余坪竹林及針葉樹ありて、一帯に当年士卒の死骨を埋めた所で石塚という。大正十三年（一九二四）廟所付近より土石を掘り出したところ、枯骨山の如く出たり、と記されている。

室伏学校

室伏学校　町指定文化財（昭和五十一年三月三十日）

大字室伏にある旧室伏学校で、明治初期の洋風建物で山梨県では、藤村式建築という。

徳川幕府が倒壊し明治の世となり、文明開化の時代となった明治六年（一八七三）県令として藤村紫朗が着任以来、教育・政治・産業振興にと若い情熱をもやし、特に学校建築に力を入れ、明治初期の建築としてはめずらしい洋風建築の学校を県下に数多く造った。

現在峡東地方に現存するものは、室伏学校だけである。明治八年（一八七五）に落成して同年十月十五日に開校され

木曽義仲参拝の子安地蔵尊

○西保下地内の木曽にある立石神社境内にまつられている子安地蔵さんは、一説には名僧行基が勧請したと伝えられている。鎌倉時代木曽義仲が上洛のとき、この地に立ち寄り子安地蔵さんに参拝し、夫人の安産を祈ったといわれ、それ以来この地を木曽と呼ぶようになったという。

あるとき旅の悪僧が、この子安地蔵さんを盗み出し、野背坂峠（山梨市境）まで行ったとき、突然背にした地蔵さんは重くなり、前に進むことが出来ず、戻ればたちまち地蔵さんは軽くなり、また進もうとすると重くなる。悪僧はついに一歩も前進することが出来ず、やむなく元の社に返したという。

○安田義定の呼ばわり石

小田野山ろくの畑地の中にある大石で、腹切地蔵さんより西に約百米離れた高台にある。源頼朝の命を受けた梶原勢に攻めたてられた義定は、小田野山要害城で一戦を交じえ武運つたなく滅びる直前に、一族郎党を集めるためこの石にのぼり大声で家来の名を呼んだと伝えられ、それ以後この大石を「義定の呼ばわり石」という。

○小田野城址の山鳴り

小田野山は鎌倉時代、安田義定の要害城であった。義定は平家追討に功績のあった名将だが、梶原景時のためこの地で悲運な最期を遂げた。小田野山は以前、赤松が全山に茂り、あらしの日や長雨の続くときは雷の如く異様な音をたて、これに矢たけびの声もまじって山鳴りが聞こえる。村人はこの山鳴りを義定の宿怨の霊であるといって恐れていた。このため村人たちは城の下に腹切地蔵さんと義定の廟所を建て、霊を慰めた。それからは山鳴りは静まり平和な里

となったという。

○足尾山の鉄わらじ

西保中の足尾山中都の神社には、鉄でつくられた草鞋（わらじ）や下駄がまつられている。むかしこの地域に疫病が流行し村人は病の床にふしてしまった。この村には日ごろ神仏に信仰の厚い仁右衛門という者が住んでいた。ある夜、仁右衛門のまくら辺に白髪の老翁があらわれ、「われは常陸国築波郡足尾山の神霊なり、おまえの信仰心により村の北山の高地にわれをまつれば、災害病苦はたちまちにしてなおる」と告げた。仁右衛門はすぐに旅立ち、足尾山にお参りして、神符と鉄のわらじを拝受して帰り、ときの代官の援助をうけ北山に足尾山中都の神社を建て村人の病苦を救ったという。

牧平の銭かめ石

牧平に高さ一二米の大岩があり、岩の上には松の古木が二本生えていた。むかしここに銭を埋めたことから「銭かめ石」という。

あるとき一羽の白スズメが、この銭を毎日一文ずつくわえて、山梨市市川の銭神山通宝寺へ運んだ。そのため寺は繁栄したが、寺の住僧がスズメに向かって、一文ずつ運んでもらうのは面倒だから一度にたくさん運ぶ法はないかというと、その翌日から白スズメは銭を運ぶのを中止した。それで今まで富み栄えていた通宝寺はまもなく貧乏寺になってしまったという（甲斐の伝説より）

善人、悪人を見わける鳥谷観音さん